

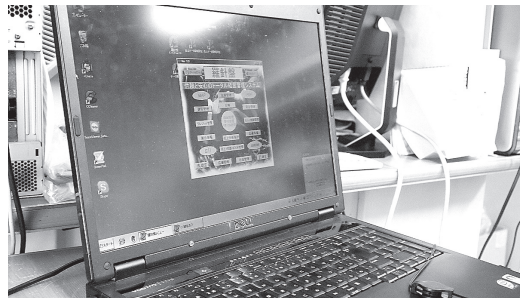


ノウハウ最前線

羅針盤の 帳票作成機能

帳票変更で店の独自性出す 店舗間移動も伝票で簡単に

受注伝票、納品伝票、預かり伝票、見積書、請求書——。地域家電店に限らず、どんな業態・業種でもお客との取り引きに必要なものが、帳票つまり「取引伝票」である。上記のようにざっと挙げてもこれだけの種類はある。自店ではどのような種類の「取引伝票」を活用しているだろうか。今回は羅針盤の伝票作成機能をレポートする。



メディアネットワークジャパン(東京都北区・03-3906-3561)の経営情報販売管理システム「羅針盤」は、こうした「帳票作成」を簡単にできる機能を充実させている。羅針盤は、顧客情報をあらゆる角度から管理・分析して、データベース・マーケティング(DBM)を実践するための地域店経営に特化したソフトだ。

中でも、顧客との取り引きをデータ処理から伝票作成・印刷までスムーズに行える便利な機能を備えている。今回はこれまでの羅針盤の導入店から事例を引用しつつ、帳票作成の新たな活用法を紹介しよう。

**帳票レイアウトが可能
カスタマイズ伝票で営業**

京都府相楽郡に立地する「いしづ電気」(森島康之社長、本誌2013年1月号掲載)は、そんな羅針盤の帳票作成機能を活用している地

域店のひとつだ。

羅針盤は、電気工事の見積書や請求書を作成する際、あらかじめ工事内容(部材、配線工事など)をテンプレートに登録しておくので、よく使う項目を瞬時に呼び出して作成時間の短縮ができる。

いしづ電気は、店舗の「電気配線増設工事」の見積書を発行する際、「動力配線」や「配線工事」といった工事内容をテンプレートに反映させてスピーディーに伝票を作成している。

一般的な会計ソフトで取り扱える帳票に勝るとも劣らない種類を取りそろえている羅針盤は、地域店にとって嬉しい機能もプラスオンで備えている。それが帳票のカスタマイズ機能だ。

特徴的なのは、自店オリジナルにレイアウトを変更したり、お店のロゴを挿入するなど細かい項目を自由に変更できる点。つまりパッケージとして存在している伝票を店独自の

● 図 羅針盤のカスタマイズ伝票の一例

① 加盟フランチャイズのロゴマークを挿入
② お店の社判
③ 社長の顔写真などを挿入
④ 店のキャッチコピーなどを添える

⑤ 配達日時やエレベーターの有無などの項目を追加
⑥ 明細項目の行数も自由に可変可

“色”をつけて、使いやすいように編集できるというわけだ。

羅針盤のユーザーのほとんどは、この機能で独自の伝票フォーマットを作成して活用している。基本的なレイアウト変更でいえば、見せたい文字を大きくするフォントの変更、明細行数を7行(デフォルト)から20行に変更することなどである。

また、配達先の集合住宅にエレベーターがある場合、エレベーターの有無や何階なのかといった情報も項目として記載できるようにカスタマイズできる。お客に分かりやすい見積書にしたり、従業員が管理しやすいように細かく明細項目を増やすなど、その使い方は自由だ。

例えばある地域店は、店の社判をテンプレート登録している。印鑑をスキャンして、“透かし”として伝票に貼り付けることで、印鑑を

常に押す手間を省くようにしている。

そのほか、自分の顔写真を挿入して、自分専用の伝票として活用している人や、加盟している電器店フランチャイズのロゴを挿入する店もある。お店のキャッチコピーを伝票の端に添えて自店をアピールすることもアリだ。

羅針盤の帳票を自在に変更して活用している地域店といえば、京都府綾部市に店を構える鎌田電器(鎌田昌司社長、本誌2012年4月号掲載)が有名だろう。

例えば、店の個展(売り出し)後は、すぐに配達作業に取り掛かれるように、売り出し中に入力した受注データを基にしたオリジナル配達表を作成している。

「住所」「担当者」「メーカー」「品目別」にデータをクロス集計して打ち出した配達表は、納品日に合わせて一斉に従業員が効率的に動

経営・販促

くことができる有益なツールとなっている。

こうした活用法は、羅針盤を使いこなしていなければ少々難しいのだが、帳票のレイアウト変更機能を使えば、これらの伝票を簡単に作成できる。レイアウト変更機能はそれだけ自店にとって利益をもたらしてくれるのだ。



商品の店舗間移動は 入出庫伝票で行う

こうした使い方のほかにも、羅針盤の帳票フォーマットは自由にレイアウトを変更できる。例えば、広島県福山市の内装・リフォーム店「インテリア川井」(川井雅樹社長、本誌2013年12月号掲載)は、工事案件の売り上げを徹底的に管理するため「実行予算書」を作成している。これは予定原価を算出するための内装業界独自の管理法なのだが、「羅針盤リフォーム仕様Pro版」を活用している同店は、瞬時にこれらの伝票を打ち出す。

帳票レイアウト機能で、もうひとつ事例を紹介しよう。例えば、「商品移動出庫/入庫添付伝票」の作成である。支店を抱える地域店、共同で仕入れを行う組織ショップなどで威力を発揮するカスタマイズであるといえる。

在庫の入出庫を2拠点で行う場合、一般的にはA本店の在庫にはない商品を、B支店から移動するといった「在庫移動」を行うはずだ。

ところが実際には、数字上の処理だけで商品が動いていなかったり、メモを残すなどして「後で一括伝票処理」なんてことも起こる。

そんなときしっかりと管理できるのが羅針盤の「商品移動出庫/入庫添付伝票」である。まず店舗間の商品移動を行う際、商品の移出入処理を行うわけだが、簡単に言えば羅針盤は移出先の伝票処理と移入先の伝票処理を一括して行うことができる。

The screenshot displays three forms for inter-store transfers. Each form has a header with '商品登録No.23', 'バーコード: 49842440974', and '出庫先(保管場所): 物流倉庫'. The forms are for '商品移出伝票(出庫品添付)', '商品移出伝票(出庫取扱控)', and '商品移入伝票(移入取扱控)'. Each form includes a table with columns for '品名', '区分', '在庫明細No.', '商品分類', '明細書/発出機番', 'メーカー/色', '数', '単位', '金額', '残高', '外', 'C'. The table data shows '商品' with '120', 'インテリアショップ', 'KDE-PE1HXZN', '2015/02/02', '15,000', '15,000', and '外 8'.

▲移出入伝票の並びも自由に変更可能

移出、移入、出庫(お客に対して)など商品の流れが、ひとつの処理(例えば「商品移動」など)を行うだけで自動的に内部処理され、伝票作成までスピーディに打ち出せる。さらにその際、商品移出伝票に「出庫品添付」や「出庫取扱控」なども作成して一枚綴りで印刷すれば、実際に移動した際の取引伝票としても機能する。

要は打ち出した伝票で、管理元と管理先がそれぞれ保持しておける「控え」をも作成できるというわけだ。これでデータ上の処理だけでなく、実際に紙ベースでも店舗間の商品移動を記録しておける。

帳票ひとつとっても自由自在に地域電器店が扱いやすいように、羅針盤の機能は充実させている。導入している店はこの機会にさらなる羅針盤の可能性を探ってみよう。未導入の店は、2015年の家電業界を羅針盤で「攻めの営業」に徹してみてもいいだろう。